

# 成人を対象にしたピアノを用いない学習支援の実践報告 —鍵盤ファイルを活用したピアノ指導—

大人のピアノ研究会

三上 香子

本稿は、鍵盤楽器の代用として鍵盤ファイルを活用したピアノ指導の実践報告である。41名の成人のピアノ初心者には、階名シールを施したビニール製の鍵盤ファイルを用いた期間限定のピアノ講座を開講した結果からは、紙鍵盤よりも鍵盤ファイルに高い有用性がみられた。また「読譜」「リズム視打」「コード奏」を組み込んだ学習支援プログラムでは、楽器の保有の有無に関わらず、講座修了者の約7割が継続学習への意欲を示した。

キーワード：成人のピアノ指導，鍵盤ファイル，学習支援プログラム，

## はじめに

コロナ禍におけるカルチャーセンターのピアノグループレッスンには、鍵盤楽器（ピアノ、キーボードなど）を保有せず、長期的な学習を念頭においていないと思われる成人の新規受講者が多数みられるようになった。他方、成人を対象にしているピアノ指導者は、ライフワークとしての音楽の愉しみを伝えることを務めとする。具体的には、愉しみながら楽器の上達を見据えた、継続的な学習支援をめざしているのである。

このような現状を鑑みて、筆者は以前に<sup>1)</sup>、ピアノを用いない学習について先行研究を渉猟した。その結果、鍵盤楽器を保有しない成人には、インターネットを利用せず、鍵盤楽器に代わる教材を見出すことと、学習の継続に繋がる学習支援プログラムの構築の2点が課題として示された。

# 1. 鍵盤ファイルと学習支援プログラム

## (1) 紙鍵盤の特徴と鍵盤ファイル

はじめに、成人を対象にした鍵盤楽器を用いない指導では、紙鍵盤の利用が望ましいと考えられた。以下の図表1は、先行研究で示された紙鍵盤の特徴をまとめた表である。このように、先行研究では、紙鍵盤学習の効果とともに、学習者や指導者の視点からみた紙鍵盤のメリットやデメリットが具体的に示されていた。

図表1 先行研究に記載された紙鍵盤の特徴

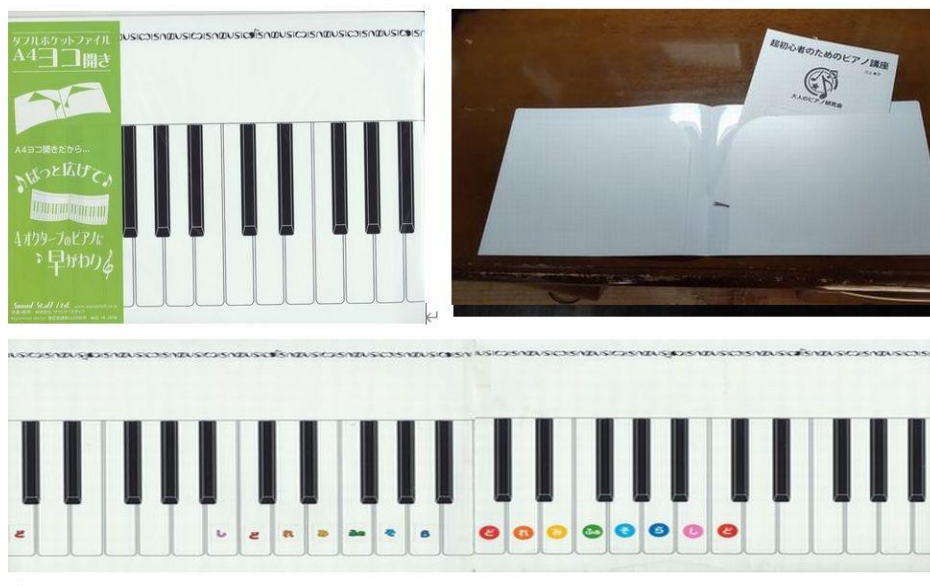
メリット (渡辺 1990) <sup>2)</sup>	
学習者の視点	・音が出ないので自分なりのレッスン(練習)ができる ・知らない曲でも平気で挑戦できる ・他人の良い所を真似して練習できる
指導者の視点	・多人数を一度に(指導)できる ・上下に動かないので指の動きがはっきりと目で見てわかる ・暗記(暗譜)の确实度をチェックできる (カッコ内は筆者の補足)
デメリット (木原 2021) <sup>3)</sup>	
学習者の視点	・自分が弾いている音を聞くことができない ・音源がない中での練習は、魅力に欠ける
指導者の視点	・音が出ないためミスタッチを見逃すことがある ・強弱がつけられないために細かい指導がしにくい

しかし、紙鍵盤の脆弱性が懸念された。そこで筆者は紙鍵盤の代用品として、破れにくい、容易に購入できる、安価である、両手で練習できる程度の鍵盤数があるという4つの条件を提示した。そして、それらを網羅する紙鍵盤の代用品を探し求めた結果、鍵盤ファイルにたどりついた。

鍵盤ファイルは、正式名称を「みるみる上達! 広がる鍵盤ファイル」といい、東京を拠点として映画音楽の制作などを手がけるサウンド・スタッフのオリジナル商品である。この商品はビニール製で、表面に鍵盤が施され、開くと紙鍵盤状になる。また、先に示された紙鍵盤の代用品の条件のうち、破れにくい、安価である、両手で練習できる程度の鍵盤数がある、の3つに該当した。しかし、プリントされた鍵盤の大きさが実際のピアノよりやや小さめであることや、市販されていないため購入がやや面倒であるというデメリットもある。

さらに、先行研究で示された紙鍵盤の特徴を鑑み、学習者が確実に鍵盤を打鍵できるように、鍵盤ファイルに階名シールを施すことにした。この階名シールは、鍵盤ハーモニカ用で剥離可能である。

鍵盤ファイルへは、赤丸のドを1点ハ音とし、右側は高音部、左側は低音部を表すことを想定した。また、低音部は左手でGコード（シファソ）を押さえるためにシールの配置を工夫した。下記の画像は、鍵盤ファイルの画像である。



図表2 みるみる上達！広がる鍵盤ファイル

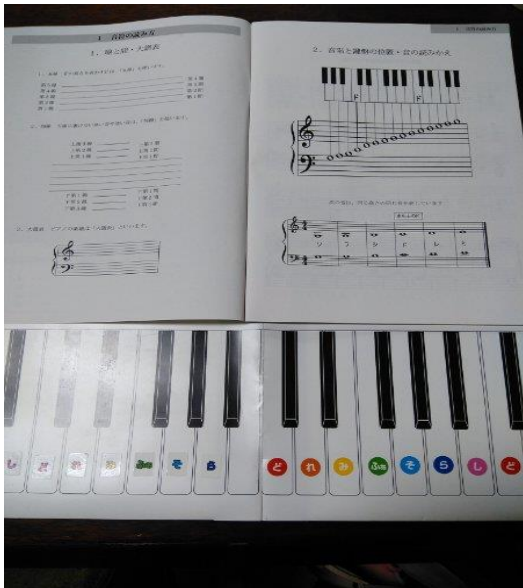
閉じた状態（左上）、内部（右上）、開いてシールを施した状態（下部）

## (2) 学習支援プログラム

学習支援プログラムは、自宅練習をしないことを想定し、座学を中心に作成した。はじめにピアノの基礎である①楽譜の読み方（読譜）と②リズムの打ち方（リズム視打）を学習し、次に③コードの弾き方（コード奏）を学習し、最後に教室で簡単な両手奏を経験してもらう内容である。そしてこれらは、大阪市内のカルチャーセンターで全3回または全4回の期間限定講座として実施された。以下は学習支援プログラムの詳細である。

### ① 読譜

はじめに、大譜表を用いて音符と鍵盤の位置をファイルで確認し、次に指示に従って読譜や記譜を行う。高音部と低音部の両方で表される音については、筆者の経験によると、難しいと感じる学習者が多いため、鍵盤ファイルを使用しながらより丁寧な説明をした（図表3）。



次の音は、同じ高さの同じ音を表しています



図表 3 読譜の譜例

## ② リズム視打

はじめに各音符の名称と長さを学習し、次に「ちょうちょう」や「かたつむり」のリズムを読みながら手拍子をする。次に鍵盤ファイルの二点ハ音とイ音を使用し（ドラリズムと命名）、片手から両手への視打を体験する。両手で異なるリズムを視打することは、いずれピアノを弾く準備練習として有効だと考えた（図表 4）。

## ③ コード奏

はじめにハ長調によく出てくるコードを中心に学習する。次に課題曲「ちょうちょう」をもとに鍵盤ファイル上でメロディーとコードを押さえる練習をする。片手ずつ指番号通りにスムーズに押さえることができるようになれば、最後に実際のピアノを使って両手奏の練習に挑戦する（図表 5）。



図表 4 リズム視打の譜例



図表 5 コード奏の譜例

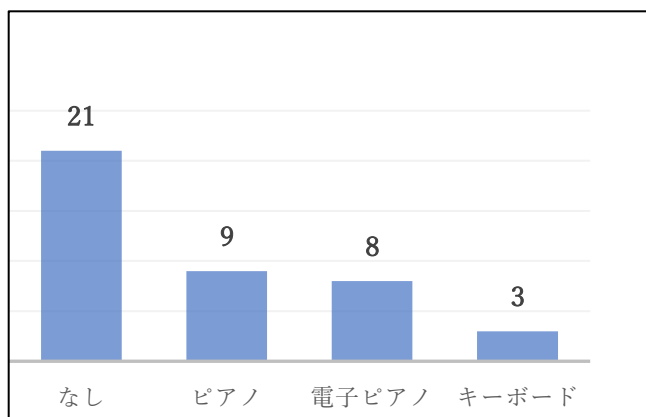
### 3. 調査の目的と方法と対象

準備が整ったため、調査を開始した。なお本稿の調査には、2つの目的がある。第1の目的は、ピアノを用いない学習支援の方法として鍵盤ファイルの有用性をあきらかにすることである。調査方法は、受講者を対象にした自由記述式のアンケート調査を実施した。そしてアンケートで得られた結果と、先行研究で示された紙鍵盤の特徴を比較し、鍵盤ファイルの有用性を検証する。なお、先行研究で示された紙鍵盤への「指導者の視点」については、指導者として筆者の感想を記載した。

第2の目的は、学習プログラムに対する受講者の満足度と継続学習への意欲を探ることである。満足度については、先に示したアンケート及び学習時の様子や発言をまとめて判断した。継続学習への意欲については、ピアノ教室への入会手続きの報告をもって集計した。そしてさらに得られた結果から、鍵盤楽器の保有と継続学習の関係について検証した。

調査の対象は、2020年7月から2022年6月までの2年間に大阪府内の4カ所のカルチャーセンターで開講された超初心者のためのピアノ講座の修了者41名である。

年代	女	男	計
30代	1	1	1
40代	4		4
50代	8		7
60代	12	2	14
70代	9	2	9
無回答	2		2
	36	5	41



図表6 調査協力者の年代と保有楽器

調査協力者のうち11名は、幼少期にまたは成人期に1年未満のピアノ学習歴をもち、残りの30名は学習経験をもたなかった。また、時間内にできなかった課題は宿題にしたが、自宅練習の有無や方法についてはとくに問わなかった。

## 4. 調査の結果

### (1) 鍵盤ファイルについての調査結果

下記の図表7は、鍵盤ファイルに関する学習者の回答と指導者の感想である。

図表7 鍵盤ファイルの回答 ( ) は回答数

	メリット	デメリット
受講者の回答	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ピアノを始められるきっかけになる (3)</li> <li>・空いた時間に練習できる (2)</li> <li>・鍵盤の位置が確認できる (4)</li> <li>・音を気にせず練習できる (2)</li> <li>・ファイルにテキストを挟み込める (3)</li> <li>・ビニール製なので破れなくてよい (5)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・音が鳴らないのでつまらない (3)</li> <li>・ミスがわかりにくい (2)</li> </ul>
指導者の感想	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多人数を一度に指導できる</li> <li>・ピアノがない場所でも指導できる (最終日を除く)</li> <li>・テキストの忘れ物がない</li> <li>・指の動きがはっきりと見てわかる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・強弱がつけられないために細かい指導がしにくい</li> </ul>

受講者の回答では、先行研究で示された紙鍵盤の特徴とほぼ等しい内容が示された。なお、「知らない曲でも平気で挑戦できる」は、該当する課題曲がなかったため回答されなかった。また、「他人の良い所を真似して練習できる」については、回答が見当たらなかった。

指導者の感想も、ほぼ先行研究と同様だった。とくに「ミスタッチの見逃し」については、調査協力者が階名シールを丁寧に確認しながら練習するため該当しなかった。また、鍵盤ファイルにテキストを挟んで持ち運びできるため、「テキストの忘れ物がない」という追加の特徴もみられた。なお、「暗記（暗譜）の確実度をチェックできる」については、学習プログラムが暗譜を含まない内容であったために該当しなかった。

### (2) 学習の満足度と継続学習についての調査結果

ピアノ講座の修了後の感想では、多くの調査協力者から「楽しくて面白かった」「わからないことがわかるようになって嬉しかった」「ピアノを習うきっかけになった」という回答が得られた。しかし、「理屈ではわかっているけど身体がついていかない」「難しすぎる」という回答もみられた。

指導者からみた調査協力者の様子では、読譜での個人差がもっとも多く、「へ音記号が読めない」という発言が多くみられた。また、なかには1点ハ音を中心

に低音部と高音部が階段状に繋がっていることに驚く声もあった。リズム視打では、既知曲（ちょうちょう、かたつむり）は滞りなく手拍子ができたが、未知曲は戸惑う調査協力者もみられた。また、片手でのリズム打ちは容易にこなした調査協力者も、両手のリズム打ちでは完成までに時間を要する様子もみられた。コード奏では、コードを弾くことよりも、コードの成り立ちを知ることに関心を示しているように思われた。また、鍵盤ファイルを使ってコードを押さえる際には、コード名や「ドミソ、ドファラ・・・」などの構成音を声に出して練習する姿が多くみられた。以上のように、超初心者のためのピアノ講座では、新しい知識を得ながら意欲的に学習する多くの調査協力者の様子が示された。

継続学習に対する調査では、調査協力者 41 名の内 30 名が、講座修了後にピアノ教室に入会した。ピアノ学習を開始した者の内訳は、楽器を保有している 20 名のうち 15 名と、楽器を保有していない 21 名のうち 15 名である。

## 5. 調査結果の考察

鍵盤ファイルの活用は、紙鍵盤の脆弱性が払拭され、さらに階名シールを施すことで、先行研究で示されたミスタッチなどのデメリットが払しょくされたと考えられる。これらのことから、ピアノを用いない学習支援の方法として鍵盤ファイルは、紙鍵盤と比較して有用性が高いといえるであろう。今後は階名シールを施さない状態で鍵盤ファイルを用いた指導をおこない、鍵盤ファイルそのものの有用性をみていきたい。

次に学習の満足感については、アンケートの回答や発言、様子から、ある程度の調査協力者の満足感を得ることができたと思われる。また継続学習については、楽器の保有の有無に関わらず、7 割の調査協力者から継続学習の意志がみられたことから、本稿の学習支援プログラムは、継続学習の意欲をうながす内容であったと考えられる。しかし、継続学習については、たんにきっかけに過ぎないともいえる。なぜなら、講座修了者の長期的なピアノ学習については言及されていないからである。一般的なピアノ学習は、自宅に楽器を保有し、自宅練習をしながらテキストをこなしていく地道な学習方法である。ほんとうの意味での「ピアノ学習の継続」は、本稿のピアノ講座修了後からはじまると言っても過言ではないであろう。本稿の学習支援プログラムは、完全に継続学習に結びついていないと言えない。今後は、ピアノ講座修了者の追跡調査が必要であると思われる。

## おわりに

本稿の調査では、ピアノを用いない学習支援の方法として、階名シールを施した鍵盤ファイルの有用性があきらかにされた。また、多くの調査協力者が満足感を表し、楽器の保有に関わらず受講者の約7割が継続学習の意志を示したことは評価されたい。なお、本調査の結果は、コロナ禍の成人だけではなく、ピアノを保有しない保育者養成校の学生にも有効なのではないかと考える。可能ならば、学生を対象にした調査も実施したいと考えている。

---

## 注

- 1) 三上香子「成人を対象にしたピアノを用いない学習支援の一考察：紙鍵盤の活用と継続学習を促す指導内容を中心に」社会教育学研究 56、2022年。
- 2) 渡辺圭子「ピアノ・レッスン「ネコふんじゃった」からはじまった(4)紙鍵盤でのレッスンの効用」『ムジカノーヴァ』27(7)、音楽之友社、1996年。
- 3) 木原加代子「オンラインによる大学生へのピアノ指導の在り方：紙鍵盤とYouTubeを活用して」音楽文化の創造(CMC電子版)、Vol.15、2021年。

## 参考文献

### ピアノを用いない学習に関する先行研究

- ・戸川晃子「ピアノを用いない練習による演奏表現向上に関する研究」神戸常盤大学紀要第8号、2015年。
- ・清水悠花(他3名)「小学校教諭免許取得をめざす学生を対象としたピアノを用いない練習による演奏技術の向上に関する研究：ICTの活用」教育システム情報学会、JSiSE研究会研究報告、32巻、2017年。
- ・渡辺圭子「大人のピアノ指導法講座」『ムジカノーヴァ』、音楽之友社、1990年。
- ・元吉ひろみ『指でなぞる大人のピアノ』ダイヤモンド社、2007年。
- ・渡辺圭子「ピアノ・レッスン「ネコふんじゃった」からはじまった(4)紙鍵盤でのレッスンの効用」『ムジカノーヴァ』27(7)、音楽之友社、1996年。

### ピアノの継続学習に関する先行研究

- ・ますこしょうこ『生徒がやめない!ピアノ教室』ヤマハミュージックメディア、2013年。
- ・友廣憲子「「保育の表現技術」科目系列の音楽(ピアノ)学習課題について：到達度調査と授業に対するアンケートを通して」長崎短期大学紀要 33、2021年。
- ・杉山祐子・栗屋晴香「ピアノ学習の自主的な継続のための指導法について」中部学院大学教育実践研究第5巻、2019年。
- ・大村典子・大崎妙子『大人のピアノ長続きのコツ』ヤマハミュージックメディア、1997年。
- ・ジェーン・バスティン他10名『あなたがピアノを続けるべき11の理由』ヤマハミュージックメディア、2011年。
- ・室井摩耶子『毎日、続ける』河出書房新社、2018年。
- ・稲垣えみこ『老後とピアノ』ポプラ社、2022年。